



地域・駅・新幹線ニュースター

はっしん！新青森

青森県立青森西高等学校
Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School



青森大学
AOMORI UNIVERSITY

2021年12月10日(金)
第28号 【FREE】

青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力：JR東日本新青森駅
〔青森学術文化振興財団助成事業〕

青森西、長万部高生「おもてなし学び」

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく⑳

大西氏（飯山市）講師にフォーラム



青森大学と青森西高校は 11 月 22 日、青森西高校を会場に「おもてなしフォーラム」を開きました＝写真右上。リアル会場と各地をオンラインで結ぶハイブリッド方式で実施し、7 月に「青西おもてなし隊」と交流した北海道長万部高校の生徒たちも参加＝写真右下。一般社団法人・信州いいやま観光局の大西宏志さん＝写真左＝のオンライン講演「雪国の新幹線駅のおもてなし」に耳を傾けました。



フォーラムは、青森学術文化振興財団の助成事業「新青森駅・青森駅を核とした市民協働の場づくりおよび情報発信の強化に関する研究・実践」の一環として、また、青森大学と青森西高校の高大連携事業として行われました。

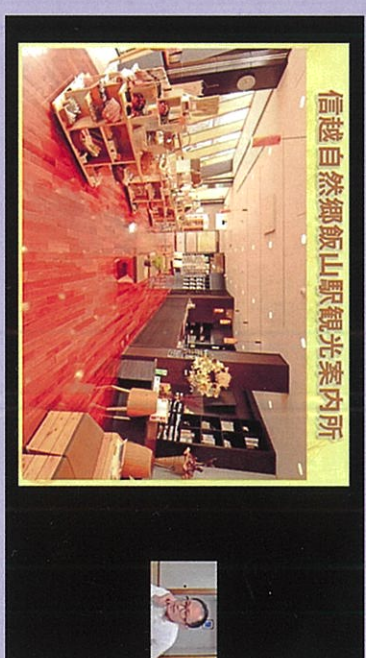
会場には、「青西おもてなし隊」隊員 23 人に加え、JR 東日本の工藤富士雄新青森駅長と盛岡支社社員、地元の話や文化を研究する団体「三内を美しく元気にする会」の中條資則会長ら、東横イン新青森駅東口の

佐藤真奈美支配人の 9 人が集まりました。また、2031 年春の北海道新幹線・札幌延伸に合わせて新幹線・長万部駅が開業する長万部町からは、駅舎デザイン検討に携わる長万部高校生と山田仁樹校長、町役場の新幹線推進課の担当者らが Zoom で参加しました。



さらに地元の国土交通省青森運輸支局、青森県交通政策課などからオンライン参加があり、リアル・オンライン合わせて約 50 人が集いました。

大西氏「リアルにない臨機応変の対応を」



大西氏は「飯山駅は 9 市町村から人と情報、交通、モノが集まるハブ。双方向性でのコミュニケーションが重視されています」と説明しました。また、「お客さまと話すことで目的やニーズを感じ取り、リアルにない求められた以上の対応を目指すことが大切。簡単にノーと言わず、『～ならできる』と臨機応変に考える発想が重要です。地球の裏側からも訪れる方々に感謝し、誠意ある対応を心がけています」と強調しました。

その起点として、日々の心がけと行動を大事にし、毎日のあいさつや、困っている人に声をかけ手を差し伸べる姿勢が重要だと述べ、「家族など身近な人に『ありがとう』と言えますか？ 自分の地域で自慢できることがいくつありますか？」と問いかけました。

「三内を美しく元気にする会」の鎌田英夫さんは「英語が苦手ですが、翻訳機を使うことをどう思いますか？」と質問し、大西さんは「全く英語が話せない職員も、時間を掛ければ話せるようになった。まさに駅

青西おもてなし隊

新青森駅から感謝状

新青森駅の工藤富士雄駅長は 11 月 22 日、青森西高校「青西おもてなし隊」に、2020 年 12 月の東北新幹線・新青森駅開業 10 周年イベントなどへの協力をねぎらう感謝状を贈りました。

贈呈式は「おもてなしフォーラム」に先立って行われ、副隊長の佐々木千束さん（2 年）が隊員を代表して、感謝状と記念品を受け取りました。



青森県立美術館 コレクション展「縄文と現代」

棟方志功、成田亨らの作品 組み合わせで新たな世界

青森県立美術館で2022年1月23日まで、「コレクション展 2021-3：縄文と現代」が開かれています＝下のQRコード。収蔵する棟方志功や成田亨の作品群と、青森県立郷土館（休館中）から借り受けた縄文時代の土器や土製品を並べ、さらに豊島弘尚らの縄文につながりのある絵画などを展示。異色とも言える組み合わせが、同館ならではの新たな世界を生み出しています。



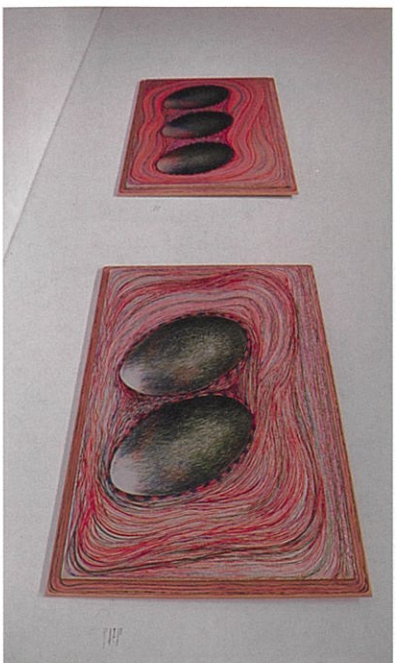
展示中の土器や土製品は、青森市の医師・大高興氏から県立郷土館に寄贈された「風韻堂コレクション」です。世界遺産・ニツ森貝塚（七戸町）から出土した

中期の壺型土器＝写真左上＝や晩期の鉢型土器＝写真左中＝、同じく晩期の注口土器＝写真右上＝の優美な、あるいは繊細な造形が目を引きます。

志功は大高氏と交遊が深く、コレクションをたびたび見せてもらっていたといい、特に土偶の表情を作品に取り入れようとしていたそうです。

縄文土器と志功の作品は数千年の時を隔ていますが、彼が描いた作品には随所に、縄文のエッセンスが感じられます。逆に、縄文の土器の文様を見ると、志功がデザインしたような錯覚に見舞われたりします。また、志功の親友である美術家・考古学研究者の小

野忠明、その弟の前衛美術家・小野弘忠の作品、そして横浜町生まれ・八戸市育ちの前衛アーティスト豊島弘尚の「縄文の卵・Ⅰ」「縄文の卵・Ⅱ」＝写真左下＝と



いった作品を見ていくと、会場で絵画と土器が、不思議な共鳴を起こしているようにも感じられます。成田亨による怪獣や宇宙人のデザインが並ぶコーナーには、宇宙船を連想させる注口土器のほか、多くの土偶が展示されていて、数千年前の世界と「未来」がシンクロする感覚を味わえます。

企画展「東日本大震災 10 年 あかし testaments」も1月23日までの開催です。



三内丸山遺跡

青い森鉄道が「GO! GO! 縄文キャンペーン」

是川縄文館



「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録を記念し、青い森鉄道は「青い森鉄道で GO ! GO! 縄文キャンペーン」を展開しています。対象の企画乗車券を購入し、青森駅または八戸駅の青い森鉄道の窓口で提示すると、三内丸山遺跡（青森市）または是川縄文館（八戸市）の「入場券」と、施設内で使える1,100 円分の「お買い物利用券」がセットになった「青い森縄文利用券」がもらえます。

対象となる企画乗車券は、「青い森ワンデーパス」（2,100 円）と「青い森ツインきつぷ」（3,900 円）です。ワンデーパスは土・休日や年末年始などに、青い森

鉄道の全線が 1 日乗り降り自由の乗車券です。駅の窓口や自動券売機、コンビニエンスストアで販売しています。ツインきつぷは青森駅～東青森駅と八戸駅の間を、「1 人で往復 1 回」か「1 人で片道 2 回」、または「2 人で片道 1 回」の利用ができる回数券です。こちらは青森駅と八戸駅で販売しています。

「青い森縄文利用券」の配布は2022年1月31日まで、使用期間は2月20日までです。さらに、Wチャンスで、抽選で毎月 100 人に「青い森鉄道と縄文関連グッズ」が当たります。詳しくは青い森鉄道ホームページで、問い合わせはキャンペーン事務局（017-762-7010）へ。

見学時間 9:00～17:00（入場は閉館の30分前まで）

休 館 日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
※12月7日（火）～12日（日）、燗蒸作業のため休館

観 覧 料 一般 410円（330円）／高校・大学生等 200円（160円）／中学生以下 無料

※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金、展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット呈示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

〒038-0031 青森市三内字丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sanainaryama.pref.aomori.jp>



三内丸山遺跡センター



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）

休 館 日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）
※企画展開催時、展示内容により変更する場合があります。

観 覧 料 一般 510円（410円）／高校・大学生 300円（240円）／小学生・中学生 100円（80円）

※（ ）内は20名以上の団体料金
※企画展は別料金、展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット呈示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-6244
URL <http://www.aomori-museum.jp>



新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）約 20 分・300 円、タクシー（南口）約 10 分・1,000 円前後、徒歩約 30 分
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約 10 分・300 円、タクシー（南口）約 12 分・1,200 円前後、徒歩約 40 分

Facebook ページ Instagram アカウソク



＜ネット情報＞

Facebook ページと Instagram アカウソクを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF 版を青森西高校ホームページ（<http://www.aomorinishi-h.asn.ed.jp/>）に掲載しています。いずれも、右側にの QR コードからご覧いただけます。

☆このニュースターは、青森大学社会学部・櫛引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ

合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。
〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部 櫛引素夫 電話 017-738-2001 内線 731

縄文と芸術 FB ページ

Instagram

